特定非営利活動法人　京都海外協力協会

リニューアル　vol.3

KOCA NEWS

2023年2月号

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
ひと・まち交流館 京都　PO.BOX No.27
E-mail：office@koca.or.jp

ごあいさつ

日頃よりKOCAに温かいご支援とご理解をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。
新年が明けて、あっという間に1ヶ月が過ぎました。みなさん、元気にお過ごしでしょうか。
2020年3月に新型コロナウィルス感染症の感染拡大のため、全てのJICA海外協力隊が一時帰国してから、2020年11月にベトナムに再派遣されるようになり、その後も少しずつ派遣が再開され、2022年12月末には累積派遣人数が 900 名になりました。
このような流れに伴って、2022年はKOCAも対面での表敬訪問に同行し、壮行会を開き、協力隊ナビを実施することができました。この1年で12名の新隊員と出会い、派遣前訓練の様子や任国での活動内容などを聞かせてもらいました。出発まで 1 ～3ヶ月あったため、時には新隊員もKOCAの行事に参加されるなど、派遣前から新隊員とKOCA会員のつながりが生まれたのはとても嬉しいできごとでした。
このご縁を大事にして、2023年は世界各地で京都出身隊員が取り組む活動を会員のみなさんや京都府民に広く知ってもらえるように、KOCAニュースや事業を通じて取り組んでいきたいと思います。また、次代を担う人たちの国際交流や国際協力に対する興味・関心が増すような活動を、小さくてもいいから一歩ずつ進めていきたいです。
今年も引き続き、ご支援ご協力をどうぞよろしくお願いします。

Profile
亀村　佳都　（かめむら　かづ）
2004-1/ニカラグア/環境教育
2018年　KOCA理事
2022年　KOCA会長

◁楽しくてピョンピョン飛び跳ねるような1年にしていきましょう🐰
（左京区岡崎神社にて）

目次

01　会長より新年のごあいさつ
02　秋募集に合わせて「協力隊ナビ」を開催しました
03　JICA海外協力隊 2022年秋募集説明会in京都
04　京都府民交流フェスタに出店しました
　　KOCAの親睦会～秋のイベント巡り～
05　2022年度３次隊壮行会を開催しました
　　2022年度３次隊のみなさんいってらっしゃい!!
06-07　第26回地球っこ講座
08　第21回日本語による外国人のメッセージコンテスト
09　第2回「世界のティータイム」
10-11　連載　VIVA COLOMBIA
12-13　連載　谷口英明さん　× 小説
14　連載　読書を通して、ヒーローになれる。
15　青年海外協力隊員　現地レポート
16　行事予定のお知らせ

秋募集に合わせて「協力隊ナビ」を開催しました

10月から12月にかけて6回開催した協力隊ナビを会場ごとに紹介します。

西陣織会館（京都市上京区）にて

10/15（土）13:00-18:00に行われていた「上京まちづくりフェスタ」に参加し、協力隊ナビのブースを出しました。JICAのホームページを見て訪れた、大学生と保育士の個別相談のほか、来場者で興味を持ってくれた5名に対してJICA海外協力隊の概要を伝え、それぞれの仕事やスキルを聞きながら、協力隊の活動についてじっくり話しました。

今回は、京都外国語大学の「Nepalink(ネパリンク)」というネパールの支援活動をするグループと一緒にブースを運営したため、Nepalinkは活動紹介やネパールの雑貨販売を行い、KOCAはネパールOB石井さんの協力を得て活動写真を展示したり、ネパールでの経験を伝えたりしました。

フェスタ全体では250人以上の参加があり、来場者だけでなく出店者もブースを訪ね歩いたため、大賑わいでした。ブース出店を終えて、大学生は「今までイベントに出店した中で、一番多くの人に活動を伝えることができ、雑貨を買ってもらえました」と喜んでいました。私たちにとっても、イベントを通じて国際協力を実践する大学生とつながる良い機会になりました。

さらに、コロンビアOBの橘さんが取り扱うコロンビア産コーヒーのサンプル配布や販売もしてみたところ、多くのお客さんが興味を示し、手に取ってくれました。

コミュニティカフェ新大宮（京都市北区）にて

10/21、11/11、12/2の金曜日13:00-16:30に開きました。参加者は、10/21は一般参加者2名とKOCA会員・協力隊OB4名の合計6名、11/11は3名ずつで合計６名、12/2は5名と7名の合計12名でした。

毎週金曜日にカレー屋さんを開くTANTOマスターの全面協力により、「気軽な雰囲気で協力隊に興味ある人の相談に乗りたい」「協力隊OBの親睦を深めたい」と場を探す私たちの希望が叶い、ネパール仕込みのおいしいカレーとコーヒー（TANTOでは、「協力隊コーヒー」を扱っています）をいただきながら、とても居心地の良い雰囲気の中で協力隊ナビを開くことができました。

JICAのホームページを見て、市内だけでなく時には和歌山県から「小学校教員経験を活かして協力隊に参加したい」と相談に来ました。

春募集の合否発表を待つ人との出会いも印象的でした。これまでの社会経験や参加に対する思いを伺い、共に合格を祈っていたので、数日後に「合格しました」との朗報が届いた時の喜びと言ったら！タイに派遣されることが決まったのでタイOBを紹介したところ、タイの活動について大いに話が盛り上がり「派遣前の不安がどんどん消えていきます」と伺いました。

「秋募集に応募します」という人とは具体的な相談をし、「協力隊には関心があるけれど、イマイチやりたいことが分からなくて」という人には、これまでの経験や好きなこと、得意なこと、将来の展望など色々とお話を聞き、人生の選択肢の一つとして協力隊への参加を紹介しつつ、人生そのものを応援する気持ちで語らいました。

京都市国際交流会館(京都市左京区)にて

こちらでは、まず、11/3（木・祝）kokokaオープンデーのブース出店に合わせて開催しました。JOCA大阪と一緒に、SDGsの缶バッジづくりと並行して、3名の協力隊に関心のある人の相談に乗りました。缶バッジは行列ができるほどの人気でしたが、スリランカ OBの坂根さんとネパールOBの石井さんが対応し、語学力に自信の無い人を励まし、小学校教員経験を活かしての応募を考える人にアドバイスをしました。

続いて11/25（金）は、JICAの協力隊パネル展示に合わせて行いました。「将来は海外で暮らしたい」と話す女性は、協力隊のほかワーキングホリデーや留学のことも考えていました。その違いが書かれた冊子を渡すととても喜んでいました。展示やクロスロードを見ながら、協力隊のことを紹介しました。他にも、「語学が好きで」「臨床心理士として国際貢献したい」とJICA海外協力隊に関心を持つ人が訪れました。

全ての会を通じて、新たな出会いがあり、JICA海外協力隊に関心がある人たちに直に接して「もっと関心ある人たちと話せる場があったらいいな」と思いました。

JICA海外協力隊 2022年秋募集説明会in京都

11/1（火）～12/12 (月)までの秋募集期間に合わせ、京都府内で募集説明会がありました。春募集は1回のみでしたが、秋は京都市2回、舞鶴市1回の合計3回と増えました。11/10は16名、11/22は17名、12/4は6名の参加でした。オンライン説明会も選べるようになり、50名、60名と会場を埋め尽くすほどの参加は過去のことになりつつありますが、アットホームで話しやすい雰囲気でした。参加者からすると、参加者人数はあまり関係ないかもしれませんね。

11/10のキャンパスプラザ京都での募集説明会では、冒頭にKOCAについて紹介する時間をいただきました。また、9月の協力隊ナビの参加者3名から声をかけてもらい、再会を喜びました。応募前から出会った人たちがいつか協力隊に参加して、帰国後もOBとして仲間になる、そんな長いつきあいができたら嬉しいなあと今から思っています。

京都府民交流フェスタに出店しました

恵まれた晴天の中、11月3日（木・祝）に京都府立植物園で開催された「京都府民交流フェスタ」の京都府国際センターのブースに、JICA関西と一緒に出店しました。

コロナ禍で例年より縮小となり、1ブースにいくつかの団体がひしめき合っていましたが、コロナ対策で小さくしたけれど、600人を超える参加者で、かえって密になるというハプニングがありながらも、大盛況のイベントでした。内容も展示とクイズ。クイズに答えた人にガラガラ抽選というシンプルなものでしたが、大人から子供まで楽しんで頂けてとても良かったと思いました。

協力隊PRとしては、クイズを通して存在を認識してもらう。パンフレットをもって帰ってもらって、読んでもらう程度ではありましたが、興味関心を持っていただくには十分だったかと思いました。

ただ、小学校低学年以下の子供さんも多く、対象年齢が20歳からという事もあり、小学校高学年対象以上のパンフレットしかありませんでしたが、国際理解の観点から、低学年以下のパンフレットも必要ではないかと思いました。

参加者人数が想定より多く、行列が出来、ブース内で収まりきらずで、休む間もなく1日が過ぎましたが、京都府国際センターの職員、名誉友好大使、JICAからのお手伝いがなければ、回って行かなかった1日でした。

KOCAメンバーも、行事が被っているにも関わらず、10人近くブースの様子を見に立ち寄ってくれました。久しぶりのイベントで、有意義な1日を過ごせたことに感謝します。

（報告　岡本）

KOCAの親睦会～秋のイベント巡り～

kocanetで呼びかけて集まったKOCA会員5名と2022年度2次隊として派遣される新隊員の６名で、11/3（木・祝）に開催された「京都府民交流フェスタ」と「kokokaオープンデー」の二つのイベントを巡りました。

雲一つない青空の下、最高の散策日和になりました。無料開放された府立植物園に入り、コスモスやバラなどの花を眺めながら、KOCAのブースを目指して歩きました。ブースにたどり着くと、クイズに答えると景品が当たる抽選ができるという企画が大ヒットしていて長蛇の列。私たちもクイズに挑戦するため列に加わりました。結果はみんな、参加賞のボールペンをもらいました。「コーヒー豆を当てたかったなあ」などと感想を言い合う中「ちょうど昨日ボールペンのインクが切れたところだったから嬉しいなあ！」と喜ぶ声を聞き、つられて「ボールペン、ありがたいわ～」と一緒に喜びました。もし一人で来ていたら、クイズには参加しなかったかもしれないと思うと、みんなで歩いて、体験できて楽しさ倍増だったことは間違いなしです。

地下鉄に乗って北山から蹴上へ移動し、13時頃、京都市国際交流会館に着くとすぐにKOCAのブースを訪ねました。こちらのブースもたくさんの人たちで大賑わいでした。ジンバブエに2023-2次隊として派遣されることが決まったばかりの人とKOCAのブースで会い、合格を祝いました。

エジプトやインド、フィリピンなどの多国籍料理を食べてから、散策会の締めくくりに地下鉄五条駅へ向かい、ケニアで理数科教師として活動した協力隊OBが営む「そのうちカフェSNC」へ向かいました。ようやくゆっくりと腰を下ろし、1万歩以上歩いた疲れを癒し、オーナーとともにおしゃべりをしました。ケニアでの活動写真を見せてもらったり、コーヒー談義をしたりと会話が尽きませんでした。会員同士、親睦を深める良い時間となりました。

2022年度3次隊壮行会を開催しました

2022年12月23日(金)16時から実施された、京都府庁での表敬訪問後、烏丸丸太町にあるCafé Kitchen Bar ツナグにて、1月にモロッコとブラジルに派遣される隊員と壮行会を開きました。

今回は、寒い事もあって、府庁では自己紹介せず、取り急ぎお店へ向かいました。

夕食前の中途半端な時間もあって、メニューを決めるのに時間がかかりましたが、おかげでコミュニケーションもとれ、和やかな雰囲気で始まりました。

まずは自己紹介。亀村会長を先頭に、それぞれの今の所属や、協力隊時代の話の間に、今から行く2人の隊員の話が挟まり、訓練の今昔や、任地で不安な事、やりたいこと、そのためにやってきたことを新隊員を中心に話をしてもらいました。

訓練では、昔あった早朝マラソンが任意になった話や、大部屋が個室になった話。また、任地での不安なことは、食事があうかどうか。それによって体調を崩さないかなどの話を、各理事の経験談をもとに共有しました。

新隊員からは、協力隊として任地で何をしていきたいか、帰ってきてから何をしたいか、すごく明確なビジョンを持たれていて、希望に満ちたお話を聞かせて頂き、KOCAの理事もたくさん元気をもらいました。(岡本)

2022年度3次隊表敬訪問

12月16日(金)10:00-10:30@京都市役所(ケニア　経営管理)
12月21日(水)13:00-13:30@城陽市役所　(ブラジル(日系)　日本語教育)
12月23日(金)16:00-16:20@京都府庁(上記2名)

2022年度3次隊のみなさん いってらっしゃい!!

①自己紹介
名前:奥村 豊
派遣国:ケニア
職種:経営管理

②応募したきっかけ
前職(看護師)に物足りなさを感じ、自分にとってチャレンジになりうる仕事をしたかったから。第二言語を一つ修得したい事もモチベーションになりました。

③訓練所での思い出
宿題が多く寝不足気味で昼休みは必ず昼寝していました。土日は出来る限りリフレッシュするようにしてました。

④派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ
現地の人々の目線に立つ事を忘れずに活動したいと思います。何より健康第一に頑張ります。

①自己紹介
名前:森岡 弘子
派遣国:ブラジル
職種:日本語教育(日系)

②応募したきっかけ
小学校の時、日系移民の物語を読み、ブラジル日系社会に行って何かしたいと思ったこと。日本語教育に異文化理解が必要だと思ったこともあります。

③訓練所での思い出
語学の勉強に朝からずーっと専念でき、しかもネイティブの先生と対面で勉強できて、毎日がとても充実してました。朝ランの景色が最高でした。

④派遣に向けて今の気持ちを一言どうぞ
やりたいことといっぱいですが、焦らず充実して2年間を過ごせるように頑張り、無事に帰国できるようにしたいです。

第26回地球っこ講座

テーマ：貿易ゲームから考える持続可能な世界とわたし

10月23日(日)10時～12時：精華町役場の交流ホールで、せいかグローバルネット、精華町との共催で国際理解講座「地球っこ講座」【貿易ゲーム】を開催しました。

このゲームは、世界の貿易をゲーム形式で楽しみながら、疑似体験することで、世界経済のしくみや先進国と途上国の格差の問題などを学び、一人ひとりが持続可能な世界のために何ができるかを考えるワークショップです。

小学生から大人まで30名の方が参加し、国際交流員のケイティさんやフランスとアメリカの方の参加もありました。他に木津南中の生徒さんが参加しているからと木津南中の教頭先生が、そして学校で貿易ゲームをする予定があるからと、高等学校の先生など、数人の方々の見学もありました。

ゲームの初期設定で、先進技術を持った国に当たったグループや技術や資源の乏しい国に当たったグループなど、スタートが平等ではないところから始まるので、製品作りや、販売などが順調に進むグループや限られた技術と資源に困惑するグループなど、いろいろでしたが、他の国と交渉したり、国連の援助を受けたり、刻々と変わる世界情勢の中、工夫しながらお金を獲得していくゲームを楽しんでいました。

青年海外協力隊OVがいたグループでは、ゲームをしながら、任地の現実的な話もしてくださっていたので、ゲームにリアリティ性も加わったようでした。

振り返りでは、技術援助があったから助かった、お金も資源もないから出稼ぎに行ったら良かった。お金だけではない幸福も考えていきたいなどいろいろな感想が出ました。

また、会場には、JICA海外協力隊の活動を紹介する写真パネルを展示し、持ち帰り自由な資料やパンフレットなどもあり、今回の講座が世界の色々な国が抱えている問題や状況を考えるきっかけになり、国際理解の一助になってくれたならと思いました。

貿易、ゲームで疑似体験

相互援助の大切さ学ぶ

やましろSDGs

音楽合わせ筆振るい

【10月24日の京都新聞掲載】

参加者のアンケートから

・貿易と聞いて難しそうだと思ったが、ゲーム形式で楽しく学べたので良かったと思いました。本当の貿易でもこんなことをしているのかなと関心を持った。
・他の国との関りなどを通して、他国と関わることの大切さ、援助の必要性が分かった。
・国どうしの関係は助け合いで築き上げたりするものだと感じた。実際の世界でもそうなってほしい。
・小学生や中学生とチームを作ってのゲーム、楽しかったです。貧しい国、豊かな国の状況を変えるのは難しくても、その国でしっかりと生きること、他の国と何か一緒にすることは大切かと思いました。

第21回日本語による外国人のメッセージコンテスト

12月11日(日) 精華町役場交流ホールで、せいかグローバルネット、精華町との共催で開催しました。KOCAの亀村会長の開会のあいさつで始まり、
アメリカ、イタリア、インドネシア、韓国、台湾、マレーシア、モンゴルの7か国８名の日本に住む外国人の方々が「あなたにとって日本とは？～これまでとこれから～」をテーマに日本で生活していて感じたことを上手な日本語で発表されました。

（参加者：発表者8人＋聴衆48人）

「日本に来て私の人生は豊かだと分かりました。」
「日本人と交流し、自分の国について教えたい」
「日本に来てから生きていくエネルギーが大きくなりました」
「交通の便利さと治安の良さで一人でどこにでも行けるようになった」
「日本人から多くの優しさと感謝の言葉を受け、成長し夢を実現しました」
「四季ごとに色どりの美しいこの国で、私も誰かの人生に色を付けられることを願う」
「日本とは幼い頃からアニメや日本文学に親しみ一緒に過ごしてきた幼なじみのようだ」
「ただいま。日本にルーツがあるので、日本での私の過去をより深く知りたい」

発表の後には、精華西中学校国際交流部が「外国のマナー」、木津南中学校チャレンジ部が「日本の名産と世界遺産」のクイズで発表者も会場のみなさまと共に楽しみました。

参加されたみなさまからは、次のような感想をいただきました。
・皆さんの日本語の上手さにとても感動しました。文化も言葉も違う異国での生活、本当に大変ですがその中で苦労、努力を重ねられ充実した生活をされているようで、とても嬉しい気持ちになりました。
・自分が思っているより、留学生の方々は日本に来たことで、人生に大きな影響を与えているのだと知り、それと同時にとても大変な思いもしているので、私も海外に行って頑張りたいと思います。
・外国の方々の日本語スピーチを聞くことは初めてだったので、どのスピーチも興味深く、日本とのつながりを語られている姿が大変魅力的でした。
・日本人として生活していると気づかないことを、今日のメッセージを聞くことで、改めて日本の良さや海外から見た日本を知ることができたので、とても良い機会でした。
・中学生のみなさんのプレゼンも知らないことが多くて楽しかったです。楽しい企画でした。

審査の結果

最優秀賞
マレーシアの　ティ ジア チェンさん
テーマ「日本に来てから」

優秀賞
インドネシアの　パトリシア ユゴさん
テーマ「私を成長させる場所」

韓国の　ソン サンドさん
テーマ「日本という幼なじみ」

イタリアの　ニコラ ピアニさん
テーマ「ただいま」

一方　会場には、JICA海外協力隊のパネルコーナーもあり、
・今まで広告等でしか目にすることがなかったので、活動者の支援方法や活動の広報誌を見ることができて、少し身近になったように感じる。
・JICAの取り組み等が詳しく展示されていて興味を持った。
・色々な支援があるんだなと思いました。
などの感想をいただきました。

審査員の代表として、KOCAの杉浦理事がコンテストの講評を行いました。

＊京都青少年ゆめネットワーク（愛称：ゆめっと京都）から「地域の若者スポットライト事業」として高校生が取材に来られました。

第2回「世界のティータイム」－お茶が介する人々の繋がり―を開催しました！

2022年11月26日(土)10時半からと14時から、2回に渡ってトークイベント「世界のティータイム―お茶が介する人々の繋がり―」を開催しました。

JICA海外協力隊・経験者の方、計4名を講師にお招きし、語っていただいたのは派遣国での生活と活動について、そしてその国で出会った「ティータイム文化」について。

講師の派遣国はスリランカ・モロッコ・パラグアイ・マレーシアと多彩でした。

ティータイムは、それぞれの国の環境や文化、価値観を反映したもので、覗いてみると様々なことが見えてくるはず。

「暮らしてはじめて分かる」その国の奥深さを体験することができる、JICA海外協力隊の魅力の一端を、参加者の皆さんに感じてもらうことができたのではないでしょうか。

高いところからお湯を注いでつくる、モロッコの香り高いミントティーや、素朴な風味と美容効果が魅力のパラグアイのマテ茶、栄養満点の美味しい飲み物として国民的人気を誇るマレーシアの「ミロ」、スリランカのとろけるほどに甘いミルクティー。スリランカのお茶の話をしているときに、イベント会場である京都市国際交流会館勤務のスリランカ出身の方が聞きに来てくださり、スリランカOGとシンハラ語で話す場面も。午前・午後の回共に、大学生や高校生の参加があり、また協力隊合格者の方が大阪からも聞きに来てくださっていました。

イベントの会場は、同時に大阪府OV会の作成した「暮らしてはじめて知った・どローカルごはん」のレシピパネルを中心とした、展示の会場となっていましたので、参加者は前後で協力隊たちの書いたレシピや隊員の活動の様子をパネルで見て楽しんでくださっていました。

＜ご協力くださった協力隊OV（派遣国・職種）＞
★高山玲子さん（スリランカ・環境教育）
★髙橋ちぐささん（モロッコ・建築）
★湯村静生さん（パラグアイ・看護師）
★鷲見ゆきこさん（マレーシア・養護）

連載

橘佳祐さんによる VIVA COLOMBIA

今回は、日本とコロンビアでの楽しみ方の違いについてお話しできればなと思います。

軟式ボールを確保した今、ボールに対する怖さや、痛みからは逃れられる環境を作ることができました。
コロンビア共和国では、野球の道具は決して多くはないので、数が確保できて、尚且つ長く使える軟式ボールはとても貴重なのは、前回お話しした通りです。

ここからは、楽しみ方について。私がとても苦労した部分です。

コロンビアの人たちは楽しむことが大好き。
音楽を聴くのも、ダンスをするのも、人と会話するのも、常に全力。
"楽しいことが一番。明日なんて考えずに今日を生きようぜ！"と言わんばかりに日々を送っています。
実際に、細かいことを色々気にしていた私は、
"そうだ。細かいことは色々考えずに人生楽しむことが大切！"
と思わせてもらうことができたし、日本に帰ってきてからもくよくよと悩む自分は居なくなった。というより、切り替えがすぐにできるようになりました。

ただ、私たち日本人は楽しむことも最終的には大切だけれどその前の過程が大切だという考えがあります。

楽しむ前にやるべきことをやる。
野球でいえば、試合をする前にまずはしっかりと練習をたくさんする。

そんなところでしょうか。

実際に、私は大学時代まで野球をしていましたが、そのような状況でした。
1に練習、2に練習、、、といった具合に試合(楽しむもの)の前にまずは練習をする。

私も、練習が全てで、それが試合に出ると思っていました。
いや、今でもそう思っています。

そのために練習を100%で。
それが"ジャパニーズスタイル"なのかもしれません。
ただ、コロンビアでは、試合がメイン。

私が担当していた子どもたちからもよく
"試合はいつするの？今日は練習だけ？"
と毎回のように質問されました。

彼らにとっては、試合がすべて。
試合こそ100%を出し切る場所。
そして全力で楽しむ場所。

というイメージ。

ある日、コロンビア滞在中に、コロンビア人が誘ってくれ、フットサルに。

フットサルの試合相手もチームメイトもほとんどが知らない人。
ただ、コロンビア人たちなのですぐに打ち解け、フットサルの試合がスタート。。。

いきなり、相手から強烈なタックルを受ける。
パスをミスするものなら、怒りを受ける。
シュートを決めるものなら、手厚い祝福を受ける。

といった具合に本当に熱い！！

こうして彼らは、常に練習試合であれ、試合で100%を出すことで、常にレベルアップをしている。
練習試合用のモチベーションや、望み方ではなくて、試合では常に100%全力！

相手へのタックルだって全力。

日本では、仲間に100%でぶつかっていくなんて、多分ないのでは？
と思ってしまいます。

"練習が試合に表れる"というのがスポーツではよく言われますが、まさにコロンビア人は練習で100%を出せるからこそ、試合でも100%をだせるのだなぁと感じました。

どこか遠慮がある日本人の私には、すごく感じさせられるフットサルの試合でした。

話が逸れましたが、、、

そのフットサルの経験から、私も"練習で彼らを楽しませること(試合をするなど、全力を出す機会を提供する)"をするにはどうすべきかを念頭に置いて活動を行うことができました。

彼らの楽しむとは、今この環境を全力で楽しむ。
彼らの全力とは、相手に遠慮をしない。中途半端な気持ちで挑まない。スポーツであれば、とことん勝敗にこだわる。
そんなところかなと思います。

日本人の私たちは、試合までの過程を楽しめるもの。
これをした先には、あれが待っている！！
だから苦しくても頑張る。

一長一短ではありますが、お互いにいいところがあるからこそ、お互いの良いところをうまく噛み合わせながら活動していく大変さと面白さを感じながら、2年間を過ごしました。

"楽しむ"
という言葉の本質は、一人一人にとって違うものですが、私は「本気にならないと楽しくない。本気な人が楽しみを感じられる。」と思っています。

次号では、2年間活動をする間に何度も壁にぶつかるもの。
"語学"について、語学を覚えるには何をすべきか。というアドバイスも含めた話をしていければなと思います。

エピソード1

谷口英明さん　× 小説

日々の生活の中で、京都を深掘りする
～「DIG into KYOTO」～

連載
新企画

今月号から連載の新企画、谷口さんの執筆活動についてご紹介をしていくものです。毎日の暮らしの中で、私たちは多くのことを感じ、考え、時には空想に浸りながら過ごしています。多忙な時間を過ごしていると、感じていることに気づかなかったり、表現したりすることはなかなかできないことも多いのではないでしょうか。

谷口さんが小説を書くようになったきっかけや、小説の物語はどのようにして生まれるのかなど、普段聞くことができない小説の誕生秘話をお届けいたします。小説はブログにアップされていますので、そちらから作品に触れていただくことができます！ぜひ、谷口さんが作る物語と世界観をお楽しみください！

【自己紹介】

私は1956年（昭和31年）に、東京の三鷹市で生まれ、小学校の1学期の途中まで東京で過ごしました。その後、6年間の小学校生活および2年間弱の中学校生活を新潟県の上越市で送りました。中学校3年の1学期に香川県の宇多津町の中学校に転校になり、その後、丸亀市の高校で3年間学びました。父の仕事の関係でこの２回（東京→新潟県、新潟県→香川県）の転校経験は私を形づくる上で大きな影響を与えた出来事だったと思います。

私は中学3年生の夏休みに大阪万博（1970年開催）に行きました。その時、万博会場で外国の方に思い切って当時習っていた英語で話しかけました。結果はなんと通じたんです。それが私の人生初の異文化体験です。

私は協力隊OBではありませんが、以前から日本を飛び出して海外で活動しようと志す若い人たちに強い関心がありました。そこで、2020年の春にKOCAの一般会員になりました。

会員になった後、2021年に協力隊活動報告集「TOGETHER」の記事作成の一部お手伝いをさせていただきました。現在は「協力隊ナビ」への参加など楽しい活動をさせていただいています。

私は2016年から醍醐いきいき市民活動センターで働いており、地域社会で市民活動を行う方々のサポートを行っています。

趣味は、京都のカフェ（コーヒー店）巡りと庭園巡りです。気のおもむくままに京都の街を探索しています。そこで見聞きしたこと、感じたことを「小説」という手法を使って記録しています。

京都のカフェや庭園の魅力を「小説」で描き、これまで５作品をつくりました。これから、10作品を目標に作品を作り続けたいと思っています。また「小説」を世界に向けて主にSNSで発信していきたいと考えており、小説の英訳を少しずつ進めているところです。

会員の皆様で、カフェや庭園に興味のある方がおられたら、是非教えて下さい！

今後京都の庭園を中心に京都の街の散策を、会員の皆様と一緒にできれば嬉しく思います。

●谷口さんにインタビュー

1.小説を書こうと思ったきっかけは？

2018年に「醍醐でムービー」という活動を有志で行い、醍醐を舞台にした１５分の短編映画を１年がかりでつくりました。その時、脚本づくりの大変さや面白さを肌で感じました。

脚本づくりの経験があったので、それが現在の小説の創作につながっています。

2.小説を書き上げるまでに大体どのくらいの時間かかりますか？

第１作目を２０２１年の７月につくりました。2022年の11月まで５作品をつくりましたが、１作品をつくるのに平均３か月ぐらいです。

3.小説を書くのはどこで書くことが多いですか？

小説の構想を練るのは、カフェや電車の中や京都の街を散策している時です。実際に小説を書くのは自宅が主で、たまにカフェで書きます。

4.現在発表している作品で、谷口さんの一番のお気に入りは？どの部分が気に入っていますか？
第１作目の「murmurな時間」です。カフェそのもの（店主、コーヒーの味、外観や内装のデザイン）の魅力を、ほのかな感じで描けたと思います。

5.今後、書きたいテーマはありますか？
飲食店の開業を含めた起業です。農園など食の問題、農業の問題を描きたいです。若者たちの夢―地球規模の活動、世界を舞台にした活動も描きたいです。

6.小説を書く中で大変なことは何ですか？
テーマを何にするかを決めて、現地で実際に取材をすすめることです。そして、構成を考えるのに時間をかけます。タイトルはすぐ決まる時もあるのですが、第５作目「真夏のガーデン」は、なかなかタイトルを決めるのに難航しました。

次回は、作品ができるまでの背景や執筆秘話についての質問をしていきます！

小説が気になった方はこちら！
谷口さんの小説はこちらから読めます！

リンク先で紹介する今回の作品は
「真夏のガーデン」

「DIG into KYOTO」（京都の深堀り）の活動として第5弾の小説です。

小説を読み終わった最後には、物語の中で出てくる京都のスポット紹介もあるのが魅力です。
小説を楽しんだ後には、聖地巡りをすることができるんです。

読むだけで終わりではなく、次は読者自身で足を運んでストーリーの世界を楽しむ仕掛けとなっており、
知らなかった京都の土地に導いてくれます。

まさしく、京都の深堀り体験。

厳しい寒さの中、真夏を思い起こして暖かくなり、
今年の夏のお出かけスポットもこれで決まり！

次のページで紹介される、ビブリオバトルへも持ち込んで
作品の良さを伝えたくなるのでは？？

連載
新企画

読書を通して、ヒーローになれる。

エピソード1

益井博史さん、ビブリオバトルって何ですか？

今月号から連載の新企画２つ目は、益井さんによる「読書を通して、ヒーローになれる。」をお届けします。
益井さんがビブリオバトルに出会ってから現在に至るまでの活動、ビブリオバトルってどんなことをするの？その魅力とは!?
など、様々な視点からお伝えしていきます。
初回となる今回は、益井さんの愛するビブリオバトルとは何なのか、そしてどんなところが面白いのかを、皆さんにお届けいたします！

【自己紹介】
益井 博史（Masui Hirofumi）
- 青年海外協力隊2015（H27）年度3次隊／青少年活動／ソロモン
- 立命館大学情報理工学部創発システム研究室 客員研究員
- 一般社団法人ビブリオバトル協会 職員
- ビブリオバトル普及委員会 理事
- 大学卒業後、まちづくり会社を経て青年海外協力隊に。
  帰国後、ビブリオバトル考案者の研究室で論文執筆や大会運営に携わる。
- 著書『ソロモン諸島でビブリオバトル』（子どもの未来社）
- 最近の趣味：サウナめぐり

皆さま、こんにちは！この度、KOCA NEWSで連載の機会をいただきました。このコーナーでは、僕の大好きな「ビブリオバトル」という本を使ったゲームの話や、それにまつわる様々なエピソードをご紹介できたらと思っています。
大学生のときこのゲームと出会い、魅力にとりつかれた僕は、初めての就職、まちづくり、青年海外協力隊、そして研究、現在の仕事に至るまで、振り返るとビブリオバトルを核にした人生を歩んでしまっていました。そんな僕が、あなたを「ビブリオバトル沼」に引きずり込む気持ち100%でお届けするので、読むときは注意してくださいね！（ふふふ…）

ビブリオバトルって何？～人を通して本を知る。本を通して人を知る～

本を読んだ後、感動を誰かに伝えたくてたまらなくなった経験はありますか？心を大きく動かす本に巡り会えたこと自体がラッキーですが、もしその感動をじっくり聴いてくれる人が身近にいるなら、あなたはさらに大きな幸運の持ち主です。家族や友人、恋人が相手でさえ、本を読んだ感想を聴いてもらうのは意外と難しいものです。感動を口にできず歯がゆい思いをしたことがある人も多いのではないでしょうか。
ビブリオバトルは、そんなあなたにぴったり！5分間で自分が持ってきた本の魅力を紹介し、参加者が「一番読みたくなった本」に投票することでチャンプ本を決める、スポーツのようなコミュニケーションゲームです。

ルールは次の**4つ**だけ。とっても簡単です。

① 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
② 順番に１人５分間で本を紹介する。
③ それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを２～３分間行う。
④ 全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が１人１票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする。

気づきましたか？あなたは今、「5分間好きな本の魅力を思う存分語っていい権利」を手にしました！おめでとうございます！

しかも素敵なことに、ビブリオバトルの参加者はとても真剣にあなたの話に耳を傾けてくれます。なぜなら、彼らは全員が「審査員」として、投票する本を決めるミッションを担っているからです。真剣に聴いていないと決められません。
えっ？「誰かに伝えたい本はないし、そもそもどんな本が面白いのかよくわからない」？大丈夫。
そんなあなたは、ビブリオバトルに話を聴きに行けばいいんです！発表参加者（よくバトラーと呼ばれます）の人たちは、あなたが読みたくなるように精一杯本の魅力を伝えようとしてくれます。なぜなら、あなたに票を入れてほしいから！
加えて、ビブリオバトルの発表では、必ずと言っていいほど本の情報だけでなく「バトラーの人となり」が開示されます。
なぜその本を選んだのか？なぜその本に感動したのか？こうした問いから浮かび上がる「その人ならでは」の魅力が、参加者に伝わってきます。それが本当に楽しいんです！ビブリオバトルが、「人を通して本を知る。本を通して人を知る」というフレーズで表される所以です。
「でも、このゲームを楽しめるのって、人前でしゃべるのが得意な人だけなんでしょ？」ですって！？とんでもありません。そもそもビブリオバトルに出会った当時の僕は…（次回へ続く）

●今回の一冊：『ビブリオバトルへ、ようこそ！』（濱野京子 作／森川泉 絵／あかね書房）
小学校の図書委員会で開かれることになったビブリオバトル。柚希は憧れの幸哉くんに注目されようとバトラーに挑戦します！ビブリオバトルの魅力がぎゅっと詰まった児童小説です。

青年海外協力隊員　現地レポート

寺門　香音さん（2021-1　マラウイ共和国　小学校教育）から現地レポートが届きました。

マラウイ湖（モンキーベイ）

こんにちは。私は４年間綾部市の小学校で教師として働いた後、現職で協力隊に参加しています。任国はアフリカ、マラウイ共和国です。アフリカで３番目に大きいマラウイ湖に面した町、モンキーベイというところが私の任地です。別名「アフリカの温かい心」と呼ばれているだけあり、人々はとても親切で、最貧国にも関わらず安心して暮らすことができます。

粘土工作の様子

私は主に近隣の小学校数校を巡回し、体育・音楽・図工・ダンス・裁縫・演劇などが統合された“Expressive Arts”という教科の指導をしています。文化や教科書が全く違い、日本での経験をそのまま生かすことはできませんが、現地にあるものを使って試行錯誤しながら授業を考える日々です。「アリの巣を用いて粘土工作をする」「自然の物から絵の具を作る」など、物が十分にある日本では考え付かないことばかりですが、新たな発見がありとても面白いです。マラウイの子ども達はとても人懐っこく反応もいいので、毎日の授業はとても楽しいです。

作品を完成させた子どもたち

町のマンゴー屋さん

また、生活の面では、親切で愉快な現地の人々に支えられ元気に過ごすことができています。停電、断水、火起こしなどが日常となる生活に最初は戸惑いましたが、現地の人たちに支えられながら日々を送る中で、この生活にも充分慣れました。今はゆっくり流れる時間の中で、現地の人たちと共に過ごす時間がとても幸せです。

マラウイでの生活も残り少しとなりました。町の人たちとたわいもない会話をしながらゆっくり過ごすこと、鶏の鳴き声で目覚めること、火起こしをしてのんびり調理をすること、どれも日本ではできないことです。残された任期は、お世話になった人たちと、のんびり楽しく過ごす時間を大切にしたいです。

行事予定のお知らせ

3月

好き＆得意を表現しよう　ひらめき皆議

　2020年の協力隊活動報告集「Together」、2021年の「世界のティータイム」、2022年の大学生BARでの協力隊ナビ。いずれの活動も、協力隊OBOGの声やつながりで生まれました。今年もアイデア出しから一緒にやります！みなさんの好きなことやできること、応援したい気持ちを持ち寄ってKOCAを通じてどんなことができるか話しましょう。

日時：3月5日（日）14:00開場＆受付 14:30-16:30
場所：バンビオ一番館　６階　配膳試食室
内容：自己紹介アイスブレイク、2023年6月～12月に向けたKOCAの活動アイデア出し
参加申込：Email：　office@koca.or.jp　またはFacebook KOCAページへのメッセージ

2022年度４次隊　表敬訪問･壮行会
日時：3月（未定）

4月

英語でSDGsゲーム（Learn about SDGs through games)
「2030SDGs」というカードゲームを通じて、英語で楽しみながらSDGsについて学んでみませんか。

日時：4月2日（日）14:00開場　14:30-17:30
場所：新大宮広間（京都市北区紫竹西桃ノ本町48番地）
京都市バス東高縄町下車徒歩6分
対象：　英語で会話できる小学5年生以上～大学生、社会人
定員：　12名（先着順）
申込：　office@koca.or.jp

5月

令和5年度通常総会
日時：5月14日（日）　午後
場所：キャンパスプラザ京都　（予定）　（京都駅下車徒歩5分）
会員のみなさま、ご多用のところお手数ですが、ご予定くださいますようよろしくお願いします。

KOCA NEWS2月号、いかがでしたか。今後もみなさんからの記事の投稿を募集しています。

KOCAネットへの登録をお願いします。
各種行事の案内や、会員の関連する行事を紹介しています。

申し込みは　E-mail：office@koca.or.jp
HP Facebook も見てね！

KOCA HP

KOCA Facebook